

本朝文鑑

首之二

911.3

木

911

本朝又鑑

一  
世  
國







五人のふとらして我京のふる新文あいに今  
ふと七人のふのいあに海よどのさのいしや  
海よ海の海しはしや海よ海河の海よ海よ  
海よ海の海の比あに湖東の五を井よふまよとあ  
以俗文選とむとむのありらる我つの外よ  
てよいさし二二二章にあに選者いふゆの作  
あに祝賀の意地とさし一く一一人連す師  
敵とれあしとらと今此選場よ右今二二二章  
解とえししてさし一金玉のありあしおと  
虚言とさしはしよ一人と一うるあに我

五ヶ條の法と書し一三二二章のあのかの式同さかとの  
一三二二章の虚言とさし一教書詔牒の記  
才二二二二章の起結とさし一三二二章の  
あしねい時あり一才二二二二句の長短とさし一  
の法よあにされい後し一才二二二二假名と直  
配とさし一三二二二句文をよ余遠地のさあに  
才五二二二祝賀のさし格とさし一一人連す  
おにさし一三二二二句の格ありし後の人  
今のひとさし一三二二二句の格ありし後の人  
師のふとゆくとしや一人の句法よ

新文の字は格とてふておしとを合して七十年編  
 えりて北華の餘力あつてかく遺誡しるは  
 多しかのう一運二の確と机右の選しかりやね眼  
 と燈下の註しあつて本お又鑑の字子と題し  
 転し我おの奇類とあつて次は漢家の詩類し  
 して余ら御おち子の文選しあつて帝王朝は  
 きも工高農史のいやふもきして陶王の廳の書  
 然るようくそのまはかして凡新あんとやれし  
 又章の中西すの事賢の居とるよとほくた又田の  
 とやうけ鬼非のんと感とらうよ何の虚實の

隅よりしらしては五ヶ條の才一とあつて言語よ  
 のおして儒佛の二カ巻もつて益とまるとも  
 才これ又文章の骨肉して才の中五は文章は  
 ろんはるとも今の世は文章とあつて一氣なる  
 骨肉してはくおおのきもは皮毛とては  
 して才一の虚實よ不自在あつて何と文章の  
 とい何と文章の情して百世のなははつて  
 らむし北浮言南語より一凡雅とおのりら  
 保し先師のつて六一種と説てこれの悔  
 とて我輩のちのひさるあつてと實永の幸知

一葉の葉とていふて草保の丁馬ノ口牛の功とていふ  
る也

推干推支子是秋四



註<sup>ル</sup>お又鑑<sup>ラ</sup>序

渡部狂

爰に。我師のつるあり。此一句ハ發端ニシテ爰ハ發語ナリ然レハ此序

此詞ヲ以テ兩所ニ意ヲ分ケル但シ論語ニハ二而皆備ノ辞義トモ見ル此語もとて一度も

おふて。此一句ヲ起語ト云イ或ハ句讀ノ句トモ云ナリあふを作るといふ

あふを巧言とみむ。此二句ヲ結語ト云イ或ハ讀トモ云ナリ總テ起結ト句讀トハ同意ニ似

少シ遠クアリ此序ニ句讀ノ点ヲ加フル故ニ起ナリ結ナリト云イ句讀ヲトラス去ト句中ノ句アリ句中ノ讀アリ讀中ノ讀モ亦

一但句ノ点ハ音ニ此面の林足身も我中へささるる。

こゝ林耳也危やとあふん。此二句ハ起語ト結語トナリ但シ四面ノ林足身ト林足

ノ毛ル時ナレハ佛語成ノ声ニ喟ナリ老ヤシヌラ下ノ佛語ノ妻ヲ知レハ己ラテケテ人ヲトクサレリ

万物ノミテは異滅ありて此句起語ナリ

反却スルニシテ。小ニ時と一念ノカケル。此句同結語

連続セリ此等ニ句讀角年月日時ノ妻のほね

此二句ハ讀中ノ讀ナリ而却一二年一月一時ト前ニ續キ又ハ心ナレハナリ前

ノ二句ハ大少ノ二ヲ云イテ後ノ二句ニ其申ラズル是ヲ錯綜顛倒ノ法トナシ

テ大中ヤヲカニニセクナリ此等ノ常志るに。此佛語ハ上ニ

トグク時ハ維ニ字ニ字ノ向ナレハ同シ也。ヤカニキ故ニ上ニ三句点ヲ

加ヘ下ニ讀点ヲ加フ是ハ註者ノ心得ニシテ傳文

ノ巨ノ故實トモ云ハシ以下ハ總テ此二句ニ效フニ守武宗鑑ナリ

ト行テ。檀林のねふ。此二句ハ結語ナリ檀林ノ後ハ維波

ノ字因ヨリ妻動シテ其後ハ長短ノ句ニ減セリ

此二句ハ妻滅ノ物結語ニシテ今此佛語ハ兜率の心院ナリ

古代ノ佛語ノ四相ヲ云ナリ此二句ヲ句中ノ讀ト云レシム此比の師の二音

新為のえとと。此新續ヲ知ラオレハ長句ニ自ツ

此ホラアヤセリ此新續ヲ知ラオレハ長句ニ自ツ古比の師の二音

トヒユム水ノ清トハ故公羽ニ正風ノ始ニシテ世ニヒキタル各句ナレハ強動山山世

ノ佛語ニ喟フ如来一三句ニ演説法ヲ衆生隨類各得解ストハ天下ノ

内人ノ様々ニナクナルヲ云ヘリ此ノ二子ニハ古比の師の二音

内流ノ分レラズナリ此ニ妻動ノ心ヲ含ヤリ古比の師の二音

時ときと。此二句ハ起語ナリ句中ニ讀アルニ似スレトモ春夏冬ノ三季ヲ雪ニ言フ

テ二句ニ云ハハ意ハ此句ニシテ起語ナリ去レハ佛語ノ正風ハ万物ヲ云フ

其所ヲ失ハスト詩奇  
正道ヲ花鳥ニ云リ秋をねてよ一床の又即と云ふ  
て。マ。序の末ニ云ふは後もたしくぬ。

この句ヲ起語トシテ連文ノ句ヲ結語ト見レシ總テ此四句ヲ數里各  
互見ノ法ト云ナリ之句ノ向ニ西チヨラ云ル故ニ夏冬ノ二チヨラ數里各  
シテ春秋ノ二チヨラ互見セリ或ハ前ノ二句ハ花鳥ヲ對シ是ヲ句對  
ノ法ニシテ互對トハ遠クナリ或ハ此二句ハ知花ノ夏冬チヨラ  
雪ノ二チヨラ隔々ハ雲土ニ受テ格トモ云フキカ或ハ秋ノ句ト春ノ句ト  
知花ヲ隔テ字對スレハ是ラハ隔對ノ法ト云フ總テハ錯綜トモ見ユ  
レト四チヨラノ二句ニ云フ時ハ互見ノ方ニ定リ又此レハ此四句ハ種々ノ  
文法アリテ之句ヲ起語トシ一ムヲ結語トスレハ古今ニ致シテ  
法ニシテ多ク文法ノ數舞ト云ナリ去レハ結句ノ末ニ云フ故  
ノ正風ハ四チヨラノ自然ヨリ出テ花鳥ノ情ニ私チカラシハ凡雅ノ感  
後ニ落レト後成  
ノ奇ヲ情テ云フ

奇とあつたむ。奇くら変へねよ。  
此二句ハ起語ナカラ  
前ノ二句ヨリ二句ヲ

生シテ全ク句中ノ句ニシテ長短ノ句法ノ鑑ト云レシ或ハ新奇變ノ句  
ヲ以テ四体ニ分ケテ二句ニ對シタル正レクハ新奇變ノ四相ナリ  
奇ノ字ニ上下ノ節アリテ是ヲハ互照ノ法ト云フ數里各互見ニ似  
テ少シ遠クイタル所アリ 減テしやと十年  
くみ過てさう下。  
此二句ハ古今ノ俳論ノ惣結語ナリ但シ之十  
余年ノ句ヲ起語トシテ減テ十年ノ句ヲ

此語の文章ありて。百世の人此從あるんふら  
彼と於てそとぬみいれんや。  
此二句ハ句讀中ノ一休ナリ  
二前ノ二句ハ句中ノ讀ニシテ

後ノ二句ハ讀中ノ讀  
ナリ然レハ上ニ返解ナリ  
此句ハ序者ノ物結語ナカラ決前生後ノ句法アリ夏冬ニ各ノ年ト  
師チツテ終季ノ記ヲツクリ東西ニ華ノ号ヲケリテ濃ノ雲山ニ踏ラカ  
セルカ實ニ俳語ノ變ヲ知リテ  
獅子庵ノ遺稿ニ此古アリ 今や又鑑の時人のた

仇諾の妻とつあふとあつた。世二句の起下結ヲ

入混園の玉と着有端して。故宮入瓦とらるる人

あしき。世二句の意對ナリ文字ノ配リハ對セテ玉ト瓦トノ意對ニ故

味フニ譬言ハ社律ノ野老河魚モ二句ニ意ノ對ニシテ

於てととととと。世二句ハ終師ノ詞ヲ返シテ此序

元章ヲ讀ミテ序詞ハ是ニテノ意ナリ去レハ世語ニハ句讀ノ点多シトノ詞

人ヲ指ルト云々ナリ。後ニ終師のつらつらあり。世二句ハ終

十ハ終語モ終端モ同じケレト前ニハ終語ノ終師ヲ云々

とがぬ人いふらぬ。世二句ノ意ナリ終師のつらつらあり。世二句

讀ニ半或ハ世。此二句ハ前ノ結語トト去レト返辭ヲ置キ

況ヤ漢ハハ文字固ナリ。此二句ハ前ノ結語トセリ是ハ本注ノ法ニシテ前ノ本

注叙セルナリ本ヨリ。韓愈のあはれい。句讀ハ

又者ノ其レヲ知ラセルハ假名ニハ詞ヲ長短アル故ナリ。序者ノ結語トセリ

世二句ハ前ノ詞ヲ借テ。此二句ハ前ノ詞ヲ借テ

トハ終語ニシテ何カ詩キノ道ヲ傳ヘ連師兼テ解クキヤトナリ。此二句ハ前ノ詞ヲ借テ

もかくととととと。此二句ハ前ノ詞ヲ借テ

了や。此二句ハ前ノ詞ヲ借テ

其時ニ三句ノ向ヲサシマタケクニ作止シ去レトモ又字ノ長短ヲ合セテ諸語

讀カナリ法微禹所ヲ知レ但シト。此二句ハ前ノ詞ヲ借テ

ハツハ若者語ナリ其人ハハ文法ヲヤナリ。此二句ハ前ノ詞ヲ借テ



の凡あしんる。河の唐人のたふ真実あしんや。

うまの句中ノ護下モ云ハシ是モ一休ノ格ナラシ然レニ古又真実上ノ日本ナリ也。

俗語ニ初四ニヤリイ胃ヲ云ハシ今ハ俵又ホク君ノクシラセラタリシ也。

二人連音の凡流あり。凡人記語の寛流あり。

似テ遠クアリ。ト云フ詩人能記トクモテ一箇ノ人ナリト云フ。上下ニ用ク兩箇ノ師ナラシ響カセタル是ヲ和國ノ法ト云フテ互照ノ法ニ

似テ遠クアリ。ト云フ詩人能記トクモテ一箇ノ人ナリト云フ。上下ニ用ク兩箇ノ師ナラシ響カセタル是ヲ和國ノ法ト云フテ互照ノ法ニ

くも。以上ノ句ハ起語ニシテ善ク又善クノ人ヲ云フ。此ハ詩ノ連飾

敬ニ況ヤト決辭ヲ置テ選場ノ致善ク云レリ。是モ數言各ノ類テ文法自在ナリ。凡人記語の寛流あり。

下ノ段ノ惣結語ナリ但レ此ニ句ノ向ニ何トノ一詞入レキニ是ハ中置者ノ

ノ虚實ナラシ業後ハ起語ノ時ノ後人ニテ或ハ向テモ云フリ又ハ向テ

ノ人後ナリ。此モ運モ其後ニ切タレテカヤリノ字ナリト例ノ虚實

ニ不自在ニテ諷判ヲ起シテ然レ誅セラル然レハ註者ノ自在モ判辨

ク思ヒテ美運ヤ如ク思フ。凡人記語ノ中ノ起語

ト師兄の因心いじむらん。

と師兄の因心いじむらん。又鑑にい註るらん。

に。此ニ句ハ起結ナキラカナリ。去トモタラシト所詞の過當と云フ

了。師兄の因心いじむらん。此ニ句ハ起結ナキラカナリ。去トモタラシト所詞の過當と云フ

ノ惣結語ナシハむモ護中ノ護ナリ。然レハ此ニ句ニ

用エラリ。去ト前ノ句ハノ字ヲ置テハ上ニク致辭ナリ。此等

モ句讀ノ格ナリ。徳テ自己ノ字ヲ置テハ上ニク致辭ナリ。此等

ト打捨テ蓋然ノ用ヲ次ニ云ハナリ但シバトハハ  
アルノ書語ニテ後又ニ他ト春テサモアスルガ起結の註とあり

と云。句讀の点となくく。此二句ハ起語ナリ然レ此句ヲ

ヲ後ハタトハナリ云キニ上ニテオト下ニハナリトノ手ハ波ヲ置スルヤテ

クナニ自ラツキテ語路ノウカ又タメナリ然レテサレ此二句ハ句ニモ同エハ

二句ニモ同エナリ此故ニ下ノ句ニモ通用ノハナリ置スルヤテ

知ラハ助語ノ用通用ラズニ知リ語路ノ新續ラズニ知リ假名直名ノ配

ラズニ知リテ句讀

と云ハズニ明カシク一却の凡例トテ。口ハ編トクテトハ

クテハ。此二句モ結語ナラフ事ハ二句ニシテ讀中ノ讀ナリ云ハ前

ハ真ニ教多アル又ラノ序同ノ向ニ示出シテ一所ニ時ヲ明ルラズハ效之ノ

二字ハ凡例ノ筆法ニシテ一却ノ文法句格ヨリ句讀長短ノフ差別ナ

此序ノ註ニアケヌハ外題ニモ凡例ノニ字ナリ但レ此註ヲ凡例ト見

レシモ此序ニハ十四條ノ文法アリナラフ條ノ句格アルハ先ハ此序ヲ看

ルニ明カニ古今ノ文章モ白文ニ明ナリト

或曰漢ニ句讀ノ法ト云フハ語ノ絶へ又処ヲ讀ト云イ語ノ絶ル処

向ト云イテ讀ヲ先ニ中ニ点レ句ヲ後ニ點レ然レハ句讀

ハ意ニシテ句中ニ讀ヲ分タリト見エ譬々ハ春ハ野山ノ雪消

テノ鶯ノ声モ和フカニ。如此两点ニテ是ラノ句ト云イ此句

點レテ一五甲ト云リ尤モ此点ハ秘省按書ノ式ニシテ漢文

總テ此法ナリ去レハ倭文ニ考レハ句ハ直地ニ其事ヲ高放シ讀

分明ニ其理ヲ訓解スト見レハ句点ヲ先ニ讀点ヲ後ラ句讀

ハ但レニ意比云シカ譬々ハ春ハ野山ノ雪消テ。鶯ノ声モ和

カ。柳ノ色モ濃ヤカナリ。如此二点ニシテ一句ニ讀ト云フ時ハ或

之句ニ讀アラズモ或ハ句五讀アラズモ句中ノ句ト云イ讀中ノ

ト云イ或ハ句中ノ讀<sub>レ</sub>圧云イテ讀<sub>レ</sub>息ノ終リヲ一句ト見ルハ漢文ノ讀<sub>レ</sub>ト句トテ合<sub>レ</sub>テ一<sub>レ</sub>句ノ外ヲ一句ト云<sub>レ</sub>公モ俣<sub>レ</sub>文ノ句ノ讀<sub>レ</sub>ト合<sub>レ</sub>テ一<sub>レ</sub>句ノ外ヲ一句ト云<sub>レ</sub>シモ總ニ先後ノ違イノミト下<sub>レ</sub>漢文ハ讀<sub>レ</sub>ト先<sub>レ</sub>中間ニ息スル中ニ在<sub>レ</sub>ル息ハ中<sub>レ</sub>絶<sub>レ</sub>ノ意ニ其<sub>レ</sub>所<sub>レ</sub>ノ句絶<sub>レ</sub>トヤ云<sub>レ</sub>キ字書ニ讀<sub>レ</sub>字ノ註解ト按<sub>レ</sub>書ノ息式ト取<sub>レ</sub>リ違<sub>レ</sub>アルヤ俣<sub>レ</sub>文ノ句ト先<sub>レ</sub>ト云<sub>レ</sub>方ニ息セハ語ノ絶<sub>レ</sub>ト印<sub>レ</sub>ト知<sub>レ</sub>リ讀<sub>レ</sub>ト後<sub>レ</sub>ト中間ニ息セハ語絶<sub>レ</sub>ル印<sub>レ</sub>ト知<sub>レ</sub>ラン但<sub>レ</sub>シ中<sub>レ</sub>息ハ連續<sub>レ</sub>ト旁<sub>レ</sub>息ハ斷絶<sub>レ</sub>ト云<sub>レ</sub>ル息式ノ道理モアル事ニヤ今ハ和漢ノ差別ヲ論<sub>レ</sub>ルハむモ後<sub>レ</sub>勘<sub>レ</sub>ナカラシヤ法ハ知<sub>レ</sub>リヤスキ方ニ隨<sub>レ</sub>ズレ但<sub>レ</sub>シ此<sub>レ</sub>序ニ云<sub>レ</sub>ル各<sub>レ</sub>語<sub>レ</sub>起<sub>レ</sub>語<sub>レ</sub>トノ二<sub>レ</sub>息<sub>レ</sub>ハ同<sub>レ</sub>ク三方ニ息<sub>レ</sub>スヘシ註<sub>レ</sub>キ時<sub>レ</sub>終<sub>レ</sub>レ<sub>レ</sub>トシ

又法

序文	各端	各語	起語	結語
返辭	決辭	釘辭	歎辭	括辭
語路	助語	押字	抱字	句頭
枕詞	句拍子			
句讀	長短	語路	斷續	

句格

數畧互見	結前生後	觸綜顛倒
奪胎換骨	魚心所着	上中下畧
雲土夢	長短句	懸碎
		鳥氣

互照 倒將衣 藏頭 藏尾 雙句  
 首尾 文對 意對 句對 字對  
 隔對 隔句 對語 對字 對態  
 本注 頓挫 畫云 隱見

石四十余條アリテ文法トハ一篇ノ法式ヲ云ク句格トハ句ノ格例ヲ  
 云リ但シ和漢ノ兩用ナリ或ハ本傳胎換骨ト古人ノ文章ノ類ヲ  
 借テ意ハ各別ナレヲ云イ或ハ雲土萬土ト八連讀ノ語ヲ分ケテ文  
 撰様ヲ附ルヲ云フ譬言ハ月花面白ト云フ月ハ面ニ花ハ白ニ  
 云ハシカ知レ其理ヨリ出タル文格ナリ或ハ蟻蟬ト光ニ云ハク古又ラ條  
 ニ其名ヲ發セルナリ詩經ノ七月ニ此格アリ或ハ自氣ハ編編ニ  
 物ノ何方ニ毛結ル古又ナリ或ハ雙面ハ一物ヲ以テ上下ノ條凡古  
 ナリ其餘ハ字面ノ訓解ニ知レシ心毛每字何ニ法格アラシモ一  
 下ニ註解アラハ且外ハ其篇ニ效レシ

總註

歌 水川詩式ニ水言ヲ謂之歌也  
 詩 詩經序人心之感物而發  
 賦 陸機文賦 佳物而瀏嘉  
 行 詩人玉屑 体行書 曰行  
 吟 文選註 吟 痛詠也 詩人玉屑  
 曲 詩人玉屑 季曲 人情也  
 引 文体明辨 大畧如序而後  
 註 詩人玉屑 通稱 俚俗 曰註  
 辭 古文於式 寄情 深而語後

箴 詩經註 以礫刺病也  
 論 文式 論 宜曲折深遠  
 傳 文式 傳 宜曲折深遠  
 記 文式 記 宜曲折深遠  
 辨 文式 辨 宜曲折深遠  
 頌 文式 頌 宜曲折深遠  
 贊 文式 贊 宜曲折深遠

銘札記 舊政書我之辭、是也  
類名、記銘其功也

表又選本、註表、明也、標也、如物之標、或曰類、政吏、曰表、陳東、曰表、也

教令舊政書、獨刻、諸侯、言曰、教、令、訓、也、教、令、也、亦曰、令、言、戒、也、亦曰、也

書狀約會、書、字、其、言、如、下、其、意、也、書、狀、猶、言、上、無、敢、狀、見、也

序跋誦文、序、東、西、端、也、虛、曰、序、末、之、誦、也、序、跋、是、也、私、曰、序、之、先、後、也

對向誦文、對、應、無、所、也、或、曰、以、寸、法、度、也、約、會、行、誦文、曰、向、訊、也、勝、也

日記誦文、曰、記、裡、也、也、紀、會、記、同、私、曰、日記、曰、本、朝、多、用、記、用、之、謂、也

碑文誦文、碑、曰、名、紀、功、德、奉、多、運、載、當、用、本、也

弔文又、選、本、為、弔、奉、葬、也、弔、弔、向、之、也、私、曰、可、言、以、書、而、訪、向、也

昔ヨリ文章ノ題名ハ黑白ニ明ナラス大概ハ似タル物多シカレハ

和漢ノ文章、序、尾ノ文、言ニ心得、了ラシカ、既ニ文選、ニハ

弔屈原、文ト、ア、ニ、右文後佳ホニハ賦類ニ入レ、滕王閣序

モ、或本ニハ記類ニ入レタリ、知ラハ漢文ノ字者、ト、モ、分明

ナラヌトハ、見、タリ、去、ト、文、鑑、ノ、論、ニ、云、ハ、コ、出、原、賦、ハ、也、在、チ

弔文ナルク、滕王閣序ハ記トモ云、ヤレト、ホ、ニ、到、リ、テ、ハ、賦ト

云ハシカ、閣ニ序、字ハ如何ナレ、但シ此類ニ序、字ヲ用、クハ、滕王

閣ニ遊フトカ、會スルト、云、シ、是ハ、其、事、ニ、詩、ル、ヨリ、不、宜、也、序、字

ヲ置ケルナラン、也、等ニ、選、者、ノ、好、惡、ヲ、知、ハ、ナリ、本、ヨリ、文、章、ノ、題

名ハ、諒、抄ニ、其、註、ハ、明、ナレト、一、字、ク、ノ、上、ヲ、註、シ、テ、字、面、ノ、似、タル、物

二十金題ナランヲ云々ニテ七題ヲ挙ケテ不似ト相似トノ区別ヲ  
註スルニ漢文ノ紡レハ殊ニ知ラズ体文ハ云々ニ分明ナラシ  
或ハ詩ト歌ハ以雅ノ才トスル物ナリ法格ハ本ヨリ也故重ナリ然レハ  
文選ナトノ部云々モ歌行曲吟ノ類ヨリ引モ辞モ詩歌ノ中ニ  
散在セリ何レモ此名ノ詩ヨリ出テ詩ヨリモ亦変化所ヲ知レシ  
詩歌ノ四題ハ云々ニ細註スルニ及ハス

或ハ歌ト行モ尤ハ相似ス物ト知レシ詩人玉屑モ相兼テ歌行ト云  
トアリ去レト氷川詩云ニハ言フ水レ情ヲ改テケルニ法格ヲ定メ  
凡見レハ或ハ長短ノ句拍子ナラシカ但レ此類ノ中尙ハ石見ナ  
云レ短語アリテ樂府ノ常詔ナリト註セリ詩ヨリモ法度ヲ省  
タレハ倭文ニハ体モアラン本ヨリ和音ハ註スルニ及ハス

或ハ賦ト記トモ相似スト賦ハ當レ前ノ物ヲ各テテ文法ニハ依

レ記ハ往古ノ起リヲ記レテ又法ハ實体ナルレ但レ賦ニ計韻ノ法モ  
或ハ辭ト云フ時ハ詩ト騷トイフヲカ子テニ体モニ歌スレトモ漢  
ノ辭ヲ見ルニ何ニテモ其古又ヲモ序レ其末ニ辭アリテ必ス叶韻ノ法ヲ  
用ユ先ハ古人ノ漢文ニ隨フレ去レト書ヲ藉ノ論言ラズ平話ニ辭ト云  
時ハ倭文ノ一体モ有ラシカト我ハ試論アリ後ハ俗辭ニ見レ誠  
漢也ハ文字ヲ固ニシテ我朝ハキ今彼ノ國ナレハ辭ハ助詔ノ古又ナレ  
モ日本ハ詞ノ微情ヲ及セリ然ラズ辭ノ体ハ後即アルキ古又ナレ但  
字書ニハ辭トモ辭トモ俗字詭字ノ論アレト又鑑ハ總テ詩讀マズキ  
隨フ是ヨリ下ノ字論トテモ一子ニ效レシ

或ハ曲ト云フハ今曲ニ情ヲ見スレト註シタレト何ノ文モキヲカ無抑  
ニ合テ今曲ニ情ヲ見スレシキ曲字ノ註ニハ不實ナリ倭ハ源順  
カ曲調モアリテ先ハ今世ニ近キ物ナリむモ和音ニハ同曲ト云イ

ハ歌附ルト云フニ拍子ハ拍子ヨリ十二拍子ト定テ向附ト云フハ拍子  
 十二拍ニ長短ノ句法トモ等ノ唱ニヨリニ即ルキカ  
 或ハ吟ト云フ時ハ物ヲ感スル所ヨリ文ニハニ沉思ノ姿アリテ杖ヲ持  
 歎息ノ聲青ナシハ虫將ノ註ニ吟字ヲ見セリ侵ニ白頭ガモ傳ニ  
 貧女吟モ文法ハ但シ歌行ノ類ナラン  
 或ハ謡トハ世向ノ凡俗ニヨリシテ室中ノ謡ヲ云スレシ或ハ歌子ト云  
 ナル所ハ歌ハ琴ノ唱ニナト見レハ萬年ノ只モ明ナリ和音ハ各調  
 或ハ引トニ序トハ長短ノ差別ト註レタレト序ト引トハ各別ノ所アリ  
 テ序引ノ差別ヲ云ハ、序ハ詩ニテ先ニシテ何ノ詩ニ序ト云イ  
 引ハ詩ニテ後ニシテ何ノ引ニテ先ト云レ但シ引字ハ誘引句引  
 二義ニテ詩ニテ余情ヲ誘イ出ス四ナラン既ニ文体明辨ニモ引ト  
 序ヨリ以後ノ題各ニテ引ト各ノ美分明ナラスト毒ハ引觀下ニ註ス

或ハ論ト解トハ各別ノ類ナラシテ論スレハ解スル理アリテ各互テ見  
 レハ其文ハ紛ルナリ去レト論ハ元々テ相對スル物ヲ論シ解ハ元々  
 一物ノ理ヲ解ス論ハ悉ク物ヲムツカレウ云イカテ曲折繁々遠  
 論スレハ解ニテモ其レヲ論スル者又ナリ  
 或ハ説ト辨トハ物ノ理非ヲ一合シテ明辨ニ説カレ所ハ相似トシ  
 説ハ虚誑ノ理ヲ以テ人ノ心ヲ感動シ辨ハ實有ノ理ヲ演テ其  
 實ヲ辨別スレハ説辨ニ様ハ各別ナリ傳又ニ虚誑ノ取違ナリ  
 或ハ記ト銘トモ相似ト記ハ其旨又ヲ記シ銘ハ其意ヲ銘スレ  
 云レシ況ヤ銘ハ簡約ニシテ文ニ法アリト註シタレハ多ク序詞アリ  
 銘アラシハ記トハ各別ノ所アリ但シ紀ト記ハ同シ  
 或ハ傳ト記トモ相似ト人ノ起リヲ傳ト云イ物ノ起リヲ記ト云  
 此等ノ道理ヲ故實トハ云ナリ或ハ傳類又モ傳類ニ入ルレシ

或ハ坊ノト頌トモ似タル所アレト云鳥ハ似テ趣ハ異ナリ頌ハ口物ノ由之  
頌シ歎クハ大ニ口ヲ替ススむ子ニ其通理ハナケレハ似テモ  
故ニ口ト知ルキナリ但シ讃字モ通用ナリ

或ハ尺表類トシテ君父ニ奉ル尺モ尺モ仏神ニ捧ル言文類ニ  
總テ此題ニ入ルシ尺表ハ上一奉リ書状ハ下一解レ或ハ同此率ニ  
贈答ス此題ハ物ナシ但シ詠誦文モ折言頌ノ詞アレシハ

或ハ書状類ニ申状及返書ハ勿論ニシテ移文様状トナシ  
但シ移文トハ本朝ノ<sup>ウケテ</sup>文ナリ

或ハ教令類ト題シテ皇族ノ類ハ勿論ナリ或ハ寺社ノ制札  
ツルシ教ハ寺塔ノ教書ニシテ令ハ王后ノ令命ナリ

或ハ對向トハ文章ヲ先ニ<sup>シ</sup>理論ヲ後ニスト云レシ向者ハ向ヲ設ケ對  
ハ對ヲ設ケテ文法ニ<sup>シ</sup>鼓舞ヲ尺ス<sup>ハ</sup>群言ハ雜陳ハ理論ヲ先ニシ

對向埋飾ヲ後ニト知レシ本朝之稱ハ對冊トナリ

或ハ日記類ト題シテ行状終事ノ<sup>ニ</sup>記ヲ入ルシ或ハ紀行ト云ハ  
日記ノ中ニ入ルキナリ總テ記類トハ各別ナリ

或ハ碑文類ニハ碑銘墓誌トナシ物テ此類ハ序ナリ其銘  
其誌トアルレシ墓誌ノ論ハ碑文類ノ下ニナリ

或ハ序文類ニハ各文家文ト<sup>ト</sup>詠誦文ヲモ多ク入レシ但シ此類凡則  
ノ表儀ヲ演ヘテ指シテ法格ニ<sup>ハ</sup>ラケレハ各碑文類ト<sup>ト</sup>ニナリ

テ序文ノ自由ヲナシナリ此等ニ和漢ノ差別ヲ<sup>テ</sup>文章ニ私<sup>ト</sup>シ  
或ハ誄ト云イ系ト云イ冊ト云イ啓ト云イ策向ト云イ彈<sup>ト</sup>云イ

皆以テ序文ノ各ニ<sup>ラ</sup>ス本ヨリ序文ニ<sup>ハ</sup>詠誦ヲ用ユル時モ文字ノ各ヨリ  
其<sup>ハ</sup>知者ニ心得<sup>レ</sup>レシ此等ヲ<sup>ハ</sup>文體ノ各格トセリ況ヤ系人系道ノ

各々但シ設論ハ對向類トナラ<sup>ハ</sup>編類ニ<sup>モ</sup>持スレ文體ノ各格

實獻十トハ増テ詠類多ク格ナシク然ルニ連珠格ト云フハ其ノ  
題名ノ類ニハアラテ文格ノ中ニ入ルキニマ

或ハ文類碑類十ト古文後集ニハ題シタト文トハ詩別ノ惣名ニ  
既ニ陸技モ文賦ヲ又目テ詩銘詠誨ハ其中ニ在リ鳥文花文

十ト一字ハナシタル題名ハアルニ北山後文ハ檄書ノ類ナシ古戰場  
文モ甲文ノ類ナリ去レト又選ノ集又ヲ文類ト題シタル如何ニ故

ニヤ知ラス或ハ碑類モ如何ナシ碑トハ木石ノ名ナレハ碑銘トハ碑文トハ  
有レシト等ニ記述者ノ鍊不鍊アルハ定ニ古文ノ属ヨリモ云ナリ誠ニ

古人ノ詞ニモ悉ク書ヲ信セストハ錯ヲ以テ錯ニテ看ク故レシ  
...

...

目錄

第一卷

歌類

天文歌 伊弉諾 地理歌 伊弉冊 人和歌 下照姫

南朝歌 柿本人麿 連歌 源賴朝 誦諧歌 貫之娘

求韻歌 高市万呂御 趣志 芭蕉庵 七種歌 東華坊

字訓歌 秋之任 念佛歌 雲居和尚 長恨歌返歌 權大入惟冬

詩類

四季花鳥 赤老仙 獅子庵 詠 和屋賞花 左

和屋賞月 全 道途遊 蓮三席 花鳥詩有感 渡部狂

秋思 僧園知

十月梅二行堂

微懷從織

官六之

山中尋酒得已兮

碓坊之支

石倫宅

寄雲戀

石過角

所思 文石

見月戲作各東羽

野菊

江北房

送越友明

渡吾仲蠅昨真

嘗 伊東燕

行路難

信古北

○弟二卷

賦類

硯賦 北手子吟

既望賦 芭蕉庵

源賦

渡吾仲

將暮賦 東華坊

讀將暮賦

村野航

日和山賦

岸昨暮

悠然賦 種乙子

好色賦

無好法師

行類

水波行

岸昨暮

一歲行

華表人

吟類

雨夜吟

依書文

曲類

加曲

作者不知田舎曲

東曲

生所坊

舞子曲

末卷坊

○弟三卷

引類

富士引

山都嘉人

千羽引

東花坊

謔類

雨乞謔 盤珪和尚

石揭謔 信上仁平

辭類

風俗辭 渡部往山院辭 保和齋

艷詞 某法印

歐州辭 高元光

情捨子辭 芭蕉庵

夕暮辭 東花坊

寫追詞 作者不詳

歲類

田居歲 芭蕉庵

猶戀歲

大邑靜

○ 第四卷

表類

告天湍宮文 御案同 町起清 遊京繁

報恩表

某寺坊

教令類

雙文林寺修石碑教 渡部往

二落柿舍制札 向玉來不

書狀類

答<sub>二</sub>浦冠者<sub>一</sub>狀 源賴朝

法文 蓮聖人返狀 源平坊

酒成盃移文 播依渡入道

贈<sub>二</sub>左堂老人<sub>一</sub>書

某坊

二洛書 今川了俊 申<sub>二</sub>白和<sub>一</sub>狀

蓮<sub>二</sub>三<sub>一</sub>房

○ 第五卷

論類

博學子論 東華坊

博知論 西華坊

解類

念仰解法然上人九品解是併房 養生主解

東在坊

地量二師大解 洞老南

傳類

三五之房傳 西行法所

應六房傳 各馬改

白狂傳 東在坊

記類

松記 俗貞室

白鷗堂記 木林石九

獅子庵記 東華坊

往來松記 江北房

六老亭記 西華坊

○第六卷

序跋類

其代序序 崑雪 東山二句序 崇堂 卜居序 白驢居

觀音西遷序 東花坊 系合序 蓮二房

午句跋 蓋木田中武 啼鴉集跋 蓮一房

對句類

花鳥對 東華坊 數法師對 櫻木因

○第七卷

辯類

居眠辨 趙北枝 挑仙辨 蓮三屠 依鬼辨 東老辨 自得辨 北老  
梅長者辨 井童平 巴五 與杖辨 東老辨 招意辨 相老角

說類

飽上人說 東山長嘍 名少垢主 說 應浪化 擇商人說 木中中  
名說 便部狂 名二子 說 木路助 論師說 西老師  
夜話說 曾呂利 江談美說 露五昂吾衛

頌類

高麥切頌 二竹堂 右利須磨頌 木林石凡  
爾德頌 高九蚌 松茸頌 川堂頌

○第八卷

贊類

淨土和讚 親善聖人 奉兜波摩七回贊 芭蕉庵  
六玉川前贊 僧大州 六玉川後贊 向美來 我依讚 依系伍  
苦馬帝贊 銳碧川 貧讚 烏磨人 貧讚 讚 東華坊  
致柱自讚 吾其角 讚 徒然讚 江北房

銘類

花桶銘 離立南 摺小本銘 藤知行 著桐銘 西華坊  
旅硯銘 桐老角 古硯銘 東老坊 孟銘 僧玉華

提細

一 呂氏又文章ヲ見ル法ニモテ條アリ才ニ見ル主張才ニ見ル

規模才ニ見ル綱目自鍵才四見ル主意有尾相應

才五見ル鋪序次第才五見抑揚停表跋才七見計策

之句法ト云ハ去ルハ此選ノエケ條ニ擬ルニ口申カ才ハ趣意

ノニシテホクニハ文法句格ナラン然レハ才四ニハ起結ヲ云イ才六ニ

ハ虚實ヲ云ル其第ノニ條ハ三則ヲ合セテ五至テ委細ニ云ル

ナラン誠ニ虚實ヨリ起結長短マテノニ條ハ和澤通用ノ文オ

ニシテ假名有は名ノ配リハ條文ノ式ト云一リ俳諧ノ筆格我内

ノ式ト云一レ此故ニ和澤ノ文法ヲ台セテ提細ノ始ニ云一リ

此書ノ初ニ歌類ヲ首トスルハ本朝文體ト云ル大意ニシテ詩ハ

其言ニ對セルヨリ和漢ノ通用ヲ顯セリ然レハオシニ賦類ノ和漢ノ  
ノ文佳者ノ先トスル物ヲ賦ハ文章ノ全解ニテ其言ハハモ書物  
或ハ吟行曲引ノ類ハ太ム詩類ニ加テハ物ク賦類ノ部トシ  
トモ本ヨリ詩騷ノ類ト知レシ或ハ且漢ニ詩類ハ所謂ル詩騷  
要ヨリ出テ同推ト俗語ト向ナル物トハタヌ文體ノ一格ヲ云ハ  
身録ハ十八題ノ各ヲ交テ大概ハ文章ノ部ニ入リ  
世書ハ古今ノ文佳者トセテ亦諸ノ作者ヲ主トシテ歌人連テ  
客タラシハ毎ハ篇ニ我ノ永ノニ子モ世理ニシテ文體ノニ子モ世  
アラレカ然レニ我ノ内ノ文章ノ世理ニ教多クハ所謂ル七題  
季ルニ題コト直レカは格ヲ出シ他ノ文章ノ足ラナル所ハ強  
數篇ノ各ヲ出セル誠ニ難スク誠ニ恐ルレシ増シテ作者ノ學  
ヲ分ケサルハ題ノ下ニ次オアルハ唐ノ文體モ世故トシ

本朝ノ文章ニ軍書物語ナトハ文法句格モ有ヤカラ句讀ノ  
長短ニカハラス偏ニ其言又ノ増ヲ明ル物トハ文佳者ノ筆格トハ  
違イアリ群言ハ源中秘衣ナトハ雷日大家ノ筆法ニモ效イテ  
史記漢書ヲ意トセル物語ト文佳者ハ世理ノ各別ニ知レテ  
世書ニ源中秘衣ノ類ヨリ文章ヲ裁入テ私ニ題名ヲ  
加ヘタルハ楚辭ノ漁父ノ篇ヲ採テ辭ノ子ヲ加ヘタル例ナリ但シ  
俳諧ノ筆格ニ近キ物ヲ選シテ世文佳者ノ飾トハセリ

文章ニ韻ヲ用ル者又ハオシニ四声ト七音ヲ知レシ四声ハ平上去  
入ナリセ音ハ唇舌牙止齒喉ニ平去齒手舌ラ抑フ或ハ沈中  
四声ノ韻譜ニ平上入者而平上上者而平上上者而平上上者  
清而遠入者者直而促ト云ハ或ハ説文ニ韻ハ和也諧也  
平山為平聲感文為平音高實為平韻トモ總テ世理ノ

註云各ロテ声ノ音韻ノ區別ハ明ナレト律國ノ人ノ漢文ヲ用ルルハ  
字面ノ道理ノミヲ知テ語路ノ音律ニ通セザルハ其ノ弊ナリ  
ニ官ニ品江仲ノ如キ人モ漢文ノ叶韻ニ覺悟ナシト云フ漢文ノ  
文章ノ韻モ或ハ有リ或ハ有ラストテ免用ニ便語ノ音律ニ通セ  
ザル漢文ノ沙汰ハ推量ナリ然レニ本朝ノ和歌ノ中ニ或ハ韻ナラ  
用イタルニ律國ノアカサハ分明ニシテ今ノ文體ニモ叶韻ハアリ  
去レハ本朝ノ韻法ニ詳キハ月ト云イ書ト云イテ次ニ面ハキト云イ  
悲シキト云フ時ハキノ字ハ同字別吟ニシテ同韻ニ用ヒキヤ古キ  
韻法ニモ此格ノ見ユルハ漢ニモトキト西用ノ類ナリ然ラレハ  
假名ノ叶韻ハアキウエラノ五音ナカラズ總ニナキニシテ不自由ナリ  
去レト春ノユキト平假名ニハ春ケレト秋ノフキトハ各カクシ其等  
ハ作者ノ心得ニアルレソ月トキト人ト云フ子ハ音書ニモ假名ハ辨レ

ト或ハタビト云フツキト假名ニラケテハ用指モ有ラカキリ假名ノ韻  
法トテモ當ラセズトノ通韻ヲ知レハ一韻ナキトモ云フ又ノ韻通明  
ノ人ニ尋ヌレ通韻ノ古又ハ多クニ難レ或ハ長公傳ノ詩モ身行ノ  
勢モ抑韻ノ体ト云フ時ハ同韻ニ同字ヲ用ヒシ古人ノ文法ニ其格  
アリ但レ韻ヲ隔ツレ或ハ音尾ノ韻ト云フ時ハ漢文トハ遠クアリ  
譬之ハ二句ニ韻ヲ用ヒ一句ニ韻ヲ用ヒニ句四句ニ隔ラズレカク又ハ  
其間ニ四句モ三句モ韻ヲ用ヒ然レハ中句ノ句ハ云イ指レ故ナリ物ナ  
世設ハ字不字ノ論ナラヌ通不通ノ誰要ナラズ或ハ假名ニ平仄ノ  
論モ委ニク詩類ノ序詞ニ見合ハレシ  
文章ニ助語ノ古又ハ人向オ一ノ要文ニテ漢ニ之キ者也ノ四助ノレハ  
傳ニキ余遠波ノ四郷音アリ然レハ和漢ニ世々子ヲ以テ貴賤是カノ  
口ヲモ令テ爾傳ニキ余遠波ハ明ナレトモ漢ニ之キ者也ハ明ナラズ

大明文鏡

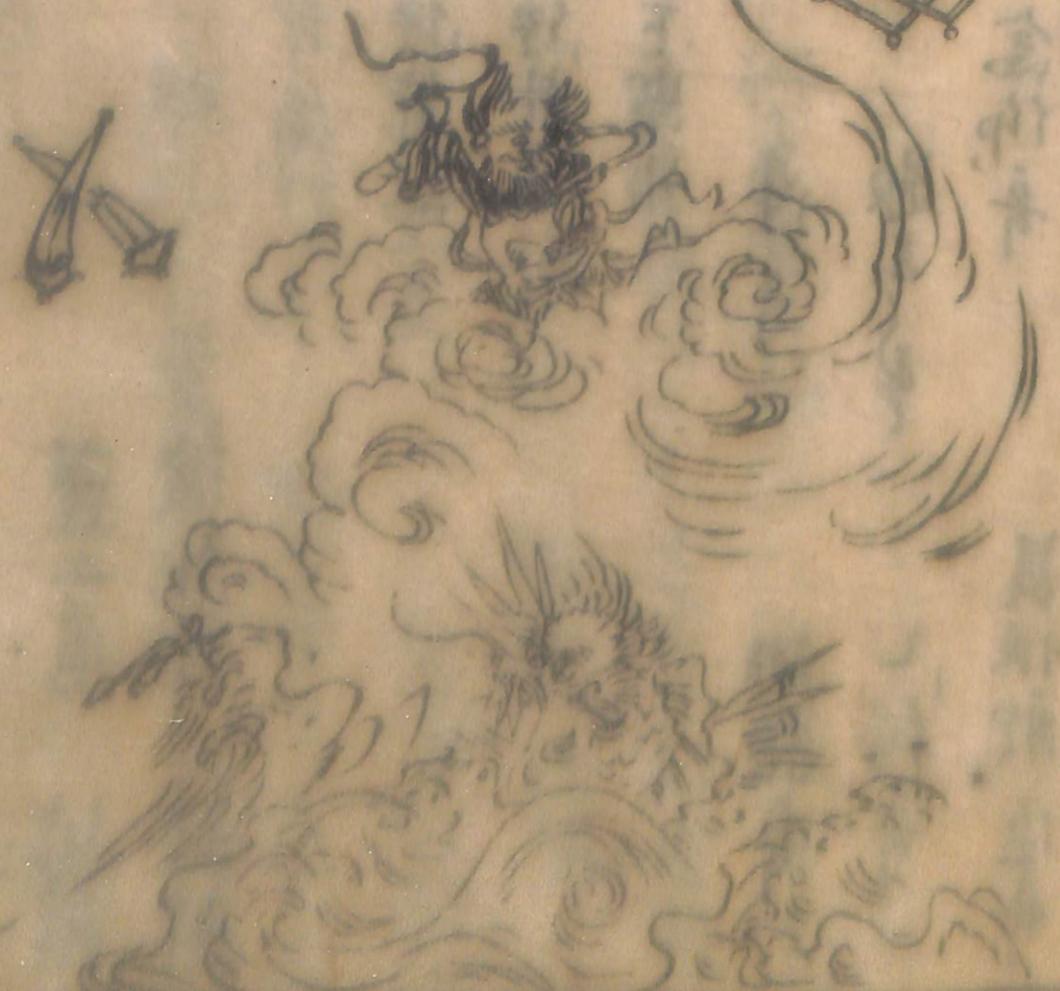
二二四



物字ノ八用ヲ知ルレシ譬ハ無用ノ千余波トテモ假名ト貞名トノ前  
ニ置レシ此故ニ文跡ハ假名ト貞名トノ両用ナリ次ニ筆者ヲ辨  
トハ譬言ハ月雲而位トモ花時鳥魚ト有テトモ貞名ノ訓ハ此  
續キタルハ但シ筆者ノ不様轉ナリ音シ故テ前ノ幻住庵ノ記ニ  
云ハ三筆定東南ニ馳セトアルヲ云ハ三筆定ト云テハ字ノ序  
ニタルハオシニ六技者ノ不字ト云レシ此等ハ五ヶ條ノ皮モト云レト  
條文ニ云ハ骨ノ節ナランカ

一 陸士衛カ文賦ニ文ハ知ルフノ難キニ非ス又ハ能スルノ難シト  
然ルヲ我乃ノ誠ニ世ニ文ニ早ラ書ク人ハ有レト世ニ文ニ早ラ  
知レル人ハ無レト云ニ此兩義ヲ辨セハ知テ能セタル者ハ少  
書テ知ラサル者ハ多カレシ是ヲ提綱ノ上ノ要文ト見レ  
總テハ文章ノ公論ナルレシ

# 水滸傳



本朝文鑑才一

本朝文鑑才一

歌類

陪幸

天文歌

地理歌

人和歌

南朝歌

水韻歌

字訓歌

伴特詔

伴特冊

下照姬

連歌

題名

念仰歌

蓮二房  
渡部和

編輯  
註解

誦詔歌

乙種歌

長恨歌  
長







つららるるあまのこころに  
まのこころをいかに  
まのこころをいかに  
まのこころをいかに

任云世字侘、古今佳事、序詞ニテ世ニ知ル所ナルヲ又鑑ノ始ニ  
歌類ヲ置テ本朝ノ二字ニ應スルヨリ暫ク世序ノ致ラ備テ  
去ニ大和ノ意ヲ顯ハシ且ハ詩類ノ序詞アルニ對セリ附シテ  
二神ノ詞ヲ以テ和歌ノ始ニ云ルヤ世故ニ其又ラ中興ラシテ  
本朝ニ和歌ヲ先トスキ謹文ニハ出セルナリ然レハ世序ヲ先  
以覺ノ諸註アリテ再ニ鑑意ヲ解スルニ及ハス悉ト世序中興

ニ六種ニ分シ古ノエアルキモ三ナドハ由ル内注ノ詞ニ  
シ義ニ中畧ル故ニ本文ノ續トハナレリ然レテ富士ノ烟ト  
橋トハ二条有泉ノ両家ヨリ今古ノ説モ區々ナルニ  
ノ辨明ヲ見レハ壁ニ古ニテ讀メル富士モ長柄ニ世ニ傳  
ハ変化スキニ和音ノ意ノく不易ニシテ人ノ心ヲ用ムキニ  
新趣ト古意トノ差別ナレハ今ハ且ツ烟モナリ且橋モ  
トイフニ何モ烟ヲヨシ橋ヲヨムキトソモモ世ノ所  
富士ノ烟ニヨリテハイナラ思ムトモ云イ結語ニ時移リ古  
トハ奈良ノ後時モ移リナリ富士長柄ノ古モ行去リ古  
ノ変化ハ様々ナレトモイフノ文字アルノニハト一段ノ有尾ハ

ナリ然ラハ諸物ノ撰記ル富士ニ断不断ノ論モアラズ長柄ニ  
造る造ノ美モアラレト我家ノ秘抄ニ註シテ但レ和音  
ノイハノ秘授アラシハ或ハ古今ノ序傳トモウ物ニ長柄橋モ尺  
ツルナリト同クト讀ナリテ人ハ云ニト下ニ續クニト心モ同クハト  
讀下スヤラス其既ハ總テ先註ニ隨フレ誠ニ世ノ存ノ称  
スル所ハカレ石ニナレハ筑波山ニカケテノ君臣父子ノ因ニテ  
重ニスルヨリ夫婦朋友ノ仁愛ヲカニニ貴賤老若ノ哀モク  
思ハル本ヨリ儒仏ノ專論ニシテ本朝ニ和音ノ基本ナララ  
ヤ是ヲ信シテ是ヲ仰クニ天地モ多ニ靈動シ鬼神モ多ニ感  
仰セル實ニハ序者ノ筆カトスレ

補古之歌

天文歌

あまのつらみはしるしにみまはる

伊弉諾

地歌

あまのつらみはしるしにみまはる

伊弉册

人歌

あまのつらみはしるしにみまはる  
あまのつらみはしるしにみまはる  
あまのつらみはしるしにみまはる

下昭姫

任云此之歌有言序、類、于天地、始、歌、之、心、一、  
三、古、性、元、此、詞、多、也、但、古、性、母、之、角、作、上、  
志、三、神、詞、多、以、手、和、音、始、上、之、意、毛、詩、書、盛、  
調、三、况、也、此、詞、之、五、七、言、上、之、殊、三、五、年、向、  
三、伊、我、之、知、約、三、可、又、神、通、不、測、和、音、之、誠、  
年、朝、交、鑿、上、知、三、然、此、之、神、也、音、文、字、配、上、  
三、子、子、上、上、此、等、神、系、秘、訣、之、三、強、許、註、其、  
三、或、同、維、少、折、衷、也、以、上、其、日、之、上、也、上、三、神、  
詞、三、神、書、之、語、力、三、圖、之、上、今、古、等、書、如、三、陸、晉、  
儀、祖、文、風、歌、之、短、語、三、正、路、之、上、也、三、歌、教、之、基

本註註セリ増シテ二神ノ世詞ノ短篇ニテ正例ナリヤ  
 二天文地理ノ兩儀ヨリ人知ノ題ニ分シタル聖典ノ世詞ニ次  
 ニシテ世詞ヲ以テ万物始トハナリ次ニ古今ノ事ノ語ニシテ  
 意ノ世傳ニ夏ハ下皇姫ト事ヤ如鳥ト云レハハ世ノ傳ニ  
 殊ニ人知ノ始ナル世ニ善ク知ル所ナレハ今ハ世姫ノ事ヲ以テ人  
 ノ始トハモリケリ然レニ世ノ事ノ事ヲ註シテ諸所ニ據クノ説  
 ト世等ハ上古ノ事ナレハ夏ノ心モウキカヌト既ニ世ノ世ニ  
 分明ナラヌヲ神秘トスレシ或ハ情輔力奥儀抄ニ世ノ事ニ韻ニ  
 ラ用ケタルカ彼ト世トハ文句ノ遠クアリ 新子ノ夏ハ求韻ノ下  
 見レシ但レ世類ノ標題ニ補古ト歌トハ文選ノ詩類ノ始ニ

モ補古ト詩トアリニ效ハハ世ニ三章ニ句ナルモ世ニ三章トセ句ナキ  
 神代ハ世ノ文字モ定ラズハ世故ニ之看ト云ハスレテノ歌トハ云ハ  
 ナリ去ルハ古代ノ詞ヲ補ヒテ今世ノ事ヲ昭ラヌト云ハキ文選  
 ニ題註ノ意ナラン總テ日本記ノ趣ナカラ伸ムルノ秘説ヲ加フ

南朝ノ考

柿本人麿

やらしき我おち己のまきくしをてあまうとくく  
 くらもはよあれもふ川の流よしうらしき  
 くらみの國のむらしき秋のやまの宮く  
 ぬくよをてあまのちかき舟をてあ





一似テ同子ヲ用ユニ其故ヲ註セス總テ此等ノ雜書ニカキ  
其書其人ヲ論ヒヨリ角己ノユマラ附キナリ但し本朝ニ  
子ノ沙汰ハ詩類ノ下ニ有合ス一シ

題云々

芭蕉庵

あこはことぬとてうらうらてあひく

うねくうらあはれうらま

ね云世子ハ祖父師ノ能諸ニテ此類モ教多ク中ニ多ク此

子ヲ選ビ一ニ古又ハ先ニ或人ノ撰集此ニテ子ヲ出ストテ

買人ヨリモ哀ナリケリト書撰シタハ故云羽ノ云鬼モ

ニ或ニヌラト今ハ買人ヨリモト改出セルナリ誠ニ物ヲ買人ノ

賣人ヨリモ劣タランハ網アキハ雑書ニ放テノ專用ナラン如何ニヤ

彼能者ノ選者ノ能骨ナル去リヤ故云羽ノ能諸ノ子ハ此外モ

アタ有ナカラハ此以躰ニハ此ル所アレハ今ハ之明ナリノ誤ラ改

ノ此多ニ世一有ラ出セルナラン

七種ノ子 五七言

東華坊

おりーらやお七種多し〜天の雲戸のあらしの外  
といふ〜此中亦多の〜ふ〜らん〜。金〜  
〜臨〜を〜えや〜〜ま〜た〜あ〜

新國の師のたしむるは形  
一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、

任云此身ハ全篇七章ニシテ其間ニ長短ノ格アリ此格ハ全篇  
カ共モ、奇ナト異山ト音通、歌ニ效ヘリ總テ五十八句ニテ  
毎ニ二句換韻ナルヲ例ニ青尾ノ韻ヲ用エ去ハ先師ノ假名韻府  
ニ奇偶ノ教ヲ調ヘテ示セリト。傳 然レハ此ニ奇ニモ偶ニ所ノ詞  
アリ面白ヤハ神多ノ発語ナルク武土ハ、矢ノ縁語ニシテ  
千早振ハ神國ノ花詞ナル例ニ樂府ノ云イ格ナリ  
去ハ此等ニ七種ノ名ヲクニ始ハ、七種ト云テ、  
六種ノミ云ハ、鷄モ、菜ハ七種ノ物、名ニ、  
他、粥トハ云ヘリ、或ハ面白ノ神多ナリ、  
戸ノ、鴨ハ句、  
戸ノ、鴨ハ句、

トハ倭朝ニ西都ノ神通ラズイテ仰ノニ子ラ寄セタルカ草木  
我國ト悉ク成仏ノ語ヲ用イ何レカ思フト讀ムルコト  
ム是ラ々園ノ法ナカラ和漢ニ筆格自在ナラハ御形  
トハ其花ノ紅ナルヲ枯シテ錦ヲ敷出ト云イカケタル  
ノコトニ漏レテ賣テハ法佛ノ教ナラト我名ノ不幸ラ  
クルナリハハ名練ノ各ニ使リテララハ其ニ例ラハ拘ト云  
太平ノ林ナララニ絃トムフ御音ヲ取シリ然ルニ路トハ各  
トハ其ノノキノ唱ヤナレト富貴ノ更加ノ名アラヨリハ太平  
物ノ勝レルラ云ヘリむモ起語ノ何々フヨリ西所ニ教ナラ結語  
シテ草ニ草ノ各ラ墨タル筆端ノ鼓舞ラズルナリ但シ

武士ノ詞ヲ墨タルハ本朝ニテ曲ノ教イアリテ先ハ詠物ナリ  
ナカラ始ニ王家ノ子孫敬ラズイ次ニ武内ノ護衛ラズル  
多ニ又草ノ虚實ヲモ知レハハハ名ニ陸奥トハ遠國島  
おノ頁ニ寄セテ呆シラ又東夷ニテモ譯ラシテ太平ラズ  
リ但シ安達ハ名所ナカラ彼里塚ニ鬼アリ氏若カラス  
ニト云ハ心ナリ技木佳ホニ寂念ノ音アリ然ルラ若ク木ノ音  
云イカヘ仁和ノ帝ノ雪ラズルハ花ノ字ノ移イヨリ花ノ  
ニテ前ニ草ヲ結シ鳥ノ子ニハ後ニ草ヲ起ス是ラ結前生後  
法ニシテ西向ノ物子ノ同ナリ所ニテ七種ノ各ヲ結語セリ或ハ八種  
八種トハ農臣ノ諺ニハ穂ハ石穂ニ穂カサイト田植諺

穂字ヨリホトクハ七種ノ難ナリ然レハ此等ノ精末  
 三ノ杵ニ過サラント君ノ所見素ヲ云イテ天ノ羽衣ノ  
 借テ末ニ擲字ノ細音ナラシムルハ千早振ノ詞ハ神ト云フ  
 ナルヲ神國ノ日本ト云イカキハ此等ヲ厭語ノ字格ト稱  
 然レハ日本ト唐土ノ句ヲ一振子ニテハタルハ号融ナリカキ  
 アリテ例ニ妻吉ノ格ト知ル結句ハ和漢ノ二鳥ヨリクモ詩  
 ノ情ヲ合セテ思ハカキノ凡モ静カニ藤忠カ詩ノ波モ治  
 テ法竹万歳ノ字行ナレシ

字訓ノ字

秋之坊

毛りれらふり下とぬ一もあらしあふ  
 人々いし

任云無クハ炭子ヲ讀テ字書ニ詠語ト云レト今ハ韻字  
 ヲ用ルヨリ本朝文粹ノ題ニ效イテ字訓ニ子ヲ用上去レハ  
 炭字ヲ造ラシムニ從テ「ハ字書ノ常ナカラ火字ヲ人物前  
 タルハ字訓作ノ字絶ナラン也モ寒ケハ炭成コレト讀テ金城  
 ノ百子ト云ヘリトフ但レ此所ハ聖域外ニ直テ法花一葉ノ道心

念佛ノ字

雲居和尚

ねんぶつ  
 ねんぶつ  
 ねんぶつ

のふれしものく

かゝるまじし十経のまのなまうで座の  
おもわれしもの

狂云世々八雲居念仏トテ尼入道ノ明暮ニ唱ヘテ一音ノ  
ニ子ヲ移ス惣テ一万余有アリトウ然レニ世和尚ハ奥ノ  
ニ住シ思堂ト思ト各ヲ布ヘテ彼ハ禪内信計ヲホリ  
此ハ經家ノ念仏ヲ勧エン中比ノ各僧ナリ世故ニ始メテ  
聖王来迎ノ雲色ヲ松嶋ノ海ノ文曰ニ攤トナラヘ次ニ廬山ノ首  
トハ蓮社ニ僧俗ノ交リラニ美シテ俊成ノ号ノ救シテ  
モ思ハレ誠ニ殊勝ヲ仰クヘク誠ニ凡雅ヲ感スヘシ

長恨歌返音

西都権太文推冬

い〜唐土ノ帝かりて 色とるふよんきしことよ  
きりやあふ比肩ニそねる 此の人とのしるはあはれ  
月も驩山の湯あはさる比 此の春はあといふゆめ  
いと端持よめなあふり 是の春の水とあはれ  
月にもあはれきりうらみ 春のゆめへのしるはあはれ  
かとうとあはれさるきしね みたき〜おれおとかわ  
はれ秋のあふるゆめを 月さるわかれことよ  
かゝるまじしもの



云イ思人稀沐ラムニ化鳥登ハニ人傷ニヤフ行対モ難  
容ニテ霜ラニ厭フハ古ニクノ詞ナリ但し驪山十月ニ行幸アリ  
年ノ春還リ玉ハ化鳥登ノ霜ハ其比ナルニ或ハ端棒ハ端正  
ニテ華清宮ノ中ニ在リテ書妃カ化粧ノ御屋ナリト其イカラ  
得衣ヒ出タラシハ其答ノ水ヲ離ルニ似ナシヤ然モタマ春暁  
ノ對ハ約ヲ用ニ奇法ニノムトニ次句ノ月日ヲ起セリ但し月花  
一字ヲ云ニ其地ニ其ノ風情ナラシ其次ハ手天カ春宵ヨリ徒  
云フ子ニ君詩解ノ譏ラ情テ四時ノ花本者ラ云イナカラ四雅  
注ハストハ長恨傳ノ詞ナリ但し其ハ張ト云錦ハ夜ト云ル其  
和漢ノ鎖辭ト云ニ其次ハ向ノ始終ニテ何カ秋ニト讀シ

花ニ思人ノ盛衰ラムイ月ニハ雲ノニ變化ラムニ思シテ馬山鬼ノ露  
ト消テ長恨ノ絶ル期モヤシトシムルハ春宵ノ事ヨリ次ニ夏  
ノ對ラ置テ再ニ秋ノ字ヲ以テ四序ニ轉變ノ終リト成ス心モ  
錯綜ノ法ナカラ四季ノ次オノ自由ラ見ニシ其次モ長恨ノ叙  
ハ重ニハト重ト云イカケテ何カ知ラス海上ニ玉棒金鼓ノ有様  
ヲ云ヘリ然ルラニ際守ト守子ラムルハ向フニ名口ヌ人ノ様ニシテ  
總テハ彼等ノ縹緲ラムヘリ其次ハ四傳ノ其地ハ日本熱田  
ニテ光在トハ彼等ノ玲瓏ラムヘリ其地ハ熱田ノ縁語ナリ  
化粧ハ化粧ナカラフニハワヒト讀ムヤ然レハ其人ノ客色ヲ

例ニホミカ 和歌花一枝ヲ言メリ 其次モ長恨ノ歌ナラバ  
 オシモト云イカケテ又月ノ便ト俵文ニ結ビタル和漢ニ備  
 法ナカラバ一五年ノ年余波ヲ味ノシ其後ハむモ結ナラバ  
 唐帝ノ好色ヲ諫ムニ似テ實ハ神國ノ皇ヲ答ハス  
 ノ趣意モ世所ニシテ又三年ノ虚容々モ世所止シ世故ニ  
 國ト云フヨリユモキ蓬カ嶋ト詔路ヲ郷音セタル和漢ノ文法ニ  
 ノ私ナク世等ヲテ類ノ文鑑ニシテ四海太平ノ区ナリ  
 但シ世作者ハ好莫ノ社司ニテ世身ノ趣向ヲ思イ寄セシ先所  
 其ノ人位署ニ代リテ斯文ヲ作シ由ラ獅子庵ノ遺稿ニ  
 存置シシカ思フニ其ノ人ハ伊勢ノ神官ナリヤ

詩類

平朝詠詩序

渡部狂

先師カ川テ武江の芭蕉庵ニありて其書と  
 白氏ニ集ムと云ク和漢の流々云々と論々ナリ  
 此も和漢との流々云々と論々ナリ  
 い詩類ニシテ五の詠路あるナリ  
 七言ありややと云レテ漢書ノ通ルヤ  
 その詩の拍子ニあつたかきわと云レテ和歌  
 の五七詠ありナリ





とよむつ子而の長短はけ論はあはれはねは江淹  
 流の序は詩ははやくの体ありて是は謠はは  
 一書ありてはあはれ詩は志也とてははははは  
 とらりとてはあはれは平仄はははははははは  
 韵字ありては韵字ありてははははははははは  
 しかをさへはれ申は一條の法は度ありてはは  
 千重万態をさへははははははははははははは  
 ことんをさへはははははははははははははは  
 身人の家とてはははははははははははははは  
 ふはははははははははははははははははははは

狂云世ニ假名ノ詩ト云フハ是ヲ本朝ノ淺解ニ是ヨリ  
ムル故ニ先ハ詩類ノ題下ニ以テ序ヲ置テ二別ニ歌類  
アハニ效ヘリ去ルハ椰子庵ノ遺稿ナレハ也

或ハ此序ニ由リ又集トハ首シ白乐天カ我朝ニ  
日本ニ詩ノ十キ古又ヲ嘲リタレハ佳吉ノ神ノ歌ヲ  
和漢ノ通情ヲ示シ給ヘルカ我朝ハ新テ一詩ノ  
詩モ此ノ如クト云ハ又ハカリニ何トナク彼カ文佳ホラ奉  
詩ノ奇ノ論ニトハ云イ出セリ

或ハ天上ノ詩格トハ南海寄信傳ノ才ハニ在リテ大ニ  
呵利ノ自暖詩ニ由テ染便殿俗離合見還服緇如

兩種復弄我君親女兒、其外ハ龍樹馬鳴十十余卷  
ノ詩賦アリシ

或ハ詩經ノ之ハ五トハ先ハ其雷、其有梅、其草ト其  
外之ハ五ノ句抑子アリテ之ヲモ一句ト云イハ子ヲ  
一句ト云ヘト二句合セテ一句ノ意ナル物多シ此故ニ  
五七ノ語路トハ云ヘリ

或ハ漢音ニ通ヤストハ唐人ハ文ヲラテ唱ハ我朝ニ  
文ヲラ訓ニスレハ漢文ニ五七ノ長短アルモ何ノ抑子  
知レ又答テ如何ニ心得テ日本ノ詩人ハ今甲ノ外  
ノ詩ヲ子ヲソト也

或ハ風俗謡モ躍口説モ同じセ々互ノ抑子ナガラ見  
見ハ近ハカリユルナト此等ハ四ノ抑子トナリ  
ニヤノ抑子ヨリニ五トモ五ニ凡用ル也凡雅上俗談ト  
別ナトト抑子ニモ知ルキカ辟言ハ平生ノ俗話雜  
モ五七語ノ抑子ヲ知ル人ヲ嘯<sup>ハシ</sup>上手トモ口快者ト  
云ハ増シテ筆ヲトリ紙ニ向イテ我ハ文者ナリト  
或ハニ子ト云フアルラモ一言トハ余ウ字ト一言トノ註  
ニメナ子ヲ合セテセヨト云イナ子ヲ合セテ五言  
云フキ其ノ所以ノ再釈ナリ辟言ハ九言モ八言モ抑  
ヲ知ラシ人ハ總テ呂律ニ合ハスキラ五七ノ語路ト定<sup>メ</sup>

抑子ヲ知ラヌ人ノ捉<sup>テ</sup>ラシ故ニ和音ノ子アリテ詩經  
ヲ證文ニ出セルナリ去レハ詩經ノ卷頭ニ関々<sup>ニ</sup>雉鳩在河  
之洲トハ一句ノ意ヲ二句トスレハ本朝ノ詩ニモ二句ノ  
句ニノニウラ一<sup>言</sup>ト云<sup>キ</sup>ニハ十<sup>四</sup>子ヲ合セテセ言<sup>フ</sup>  
ト根本ノ詩經ヲ鑑<sup>ニ</sup>ノ一<sup>字</sup>一<sup>句</sup>ノ私ナキ是ヲ古人ノ  
先格ニヨリテ一條ノ法度トハ云フナルレ誠ニ五七ノ抑子  
ノ詩經ノ先達モ論セテラシハ<sup>ニ</sup>本朝ノ文鑑ノ  
面皮トスヘキハ此論ナリ  
或ハ約子平反ナト總テ古人ノ法格ヲ破テ人<sup>ノ</sup>所  
異ラシハ増シテ本朝ノ手柄ト云レ<sup>レ</sup>次ニ律詩ノ法トテ

總テ作者ノ才覚ヲ以テ永ク假名ノ詩ノ凡体ヲ  
今日ノ人ハ明ク師トナリ明クノ詩ハ百世ノ文鑑タラ  
去ルハ本朝ノ詩ノ元祖タラシハ先ハ詩行ノ擬古擬  
子ヒテ古詩ノ凡体ニ效ヘヨリ次ニハ和漢ノ通  
アラシク漢土ノ詩人ニ東坡山谷カ以テ慕ヒ本朝ノ  
ニハ菅家源順ノ名ヲ思ハサラシヤ然モ江淹ノ序  
ヲモ引ナカウ古人ノ法格ヲ見合セテトハ和漢ノ通用  
論ニハ時流行ノ備トモ云フ一但此序ハ先師貴  
稿ナラ暫ク白狂カ名ニ寄セテ爰ニ其言ヲ傳レハ  
結語ハ踊ノ一子ヲ以テ序者ノ誠恐誠惶ト見レシ

擬古二詩

四季ノ花鳥

五言

本朝ノ詩

花

春風吹く花も紅く。 花はけいさかあけの  
夏風吹く花も白く。 花はけいさかあけの  
秋風吹く花も黄く。 花はけいさかあけの  
冬風吹く花も黒く。 花はけいさかあけの

鳥

春鳥啼く花も紅く。 鳥はけいさかあけの  
夏鳥啼く花も白く。 鳥はけいさかあけの  
秋鳥啼く花も黄く。 鳥はけいさかあけの  
冬鳥啼く花も黒く。 鳥はけいさかあけの

花ノ一草ハ名利ノ感ナリ去ル人向毎ニ在リ

和歌ハ世ノ凡俗ナルヲ知り各歌ハ千歳ノ君子  
見六和葉ハ兔毛角モ掃スツヘキニ各花ハ  
スト花ハ落コ葉ノ口モチラ合メタル語意サ  
リ然レハ其ノ葉ヲ和ニ喩ヘ其ノ花ヲ名ニ喩テ  
ハ酒色ノ両歌ナト花ニ喩フルハ的面ナラシ或ハ  
句ニ至リテサ化コ葉ノ二字ヲ室子タル或ハ思至語ノ  
モ似タレト是ハ本注ノ法ニシテ古詩ノ体ニハ格アリキ  
君着ノ二字ハ歌行ノ常語ニシテ向一詩ノ人ヲ指ス  
ナリ或ハ花ニ怙ムトハ以上被サ花怙ナト杜公ト詩  
詞ヨリ静心ナクサ化ノ散ラントモ絶ヘテ櫻ノナカリセ

トモ詩身ノ人ノ情ヲ汲ミテ花ニ和ル歌息ナリ然レハ  
標題ニ擬古ニ詩ト云ル前ニ歌類ノ之歌ニ效イテ云ニ  
ニ詩トハ題ヲナリ花モ此詩ハソコトノ韻ヲ用ユ叶韻ハ  
總テ云々ニ效フレ但シ花花仙ハ先師ノ詩ヨリナリ  
和云鳥ノ一章ハ衣食住ノ感ナリ云ハ人向ノ世ニ在  
テハ寒暑ノ往來ニ苦ホアリテ富貴貧賤モ且レシ  
隨フ者ナリ然ルラ我身ニ感レハ衣ハ行先ノ有ルニ  
隨イ食ハ行先ノ<sup>モテナシ</sup>饗ニ任セ住ハ行先ノ留ルニ遊フ者  
ト此ニ云々苦ホ交ハリテ野山ノ鳥モ似チラマ然レハ  
假リノ世人苦ホヲ認テ憂レツラトハ如何ニ思ハヤ

ノ教誠ニ花鳥ノ情ヲ顯テ家ニ條ノ道ヲカラシヤ近ク  
此詩ヲ學ビテ遠ク其人ヲ嘲ルカラス、

獅子庵之詠 七言

本心也

松

松とあそびに松も森らぬ。  
我といひし世なとをわたり。  
雪のやうに月のおもひ  
竹とあそびてえとつとまらぬ。

茶

梅とあそびに梅も花らぬ。  
茶といひし世なとをわたり。  
雪のやうに月のおもひ  
竹とあそびてえとつとまらぬ。

人月文監

三三

望之云云あは性ふれど。

利体の家のあまもいり

むのぬぶるうけんせ

松云松ノ一章ハ明友ノ趣向ヨリ藤原ノ風カ松ヲ讀  
松ヲ昔ノ友ト云イ一昔ノ敵カ竹ヲ愛ソ竹ヲ此者ト  
云和漢ノ風流ヲ取合セテ詩云ノ通情ヲアスハセリ況  
松竹ノ名ヲ類レテ松ニ公字ノ所以アルヲヤ或ハ松ニ  
トハ和音ノ詞ノ云イカケニテ松ニ根字ノ鎖辭ナラシ  
雪ノ白ニ月ノ夜トハ松ニ月雪ノ形容ヲ附ケテ字面  
四時ヲ含メタリ誠ニ此生ノ友ヲ思ハシハ曉ノ露雪ノ

寸草三遊ノ子ハ莊子ロハ助骨アリテ逍遙ノ業カモ

敵スヘク風雅ノ趣情ヲ尽セリト云フハシ

和云茶ノ一章ハ俳諧ノ趣向ヨリ和漢ノ詩云ヲ取合

テ楚辭ハ夕々トシハ梅ヲモ亡レケン何トテ朝々三疊ノ

奇ニ讀レヌハ茶ノ遺恨ナラシト去レト我々ノ俳諧ハ詩

歌ニ肩ヲ双ヘカタクテ前次豆ノ會ニハ音ヲ注ラント例ニ

虚實ノ文法ヨリ例ニ俳諧ノ筆格ナリ去レハ風雅ノ上

ノ揖讓ヲ以テノ々庶茶ノ飽体ヲ見ルキナリ

和云ハ五ノ一章ハ教音者ノ趣向ヨリ風雅人ニ敵對セリ

所謂ハ法性寺ハ洛外ノ名物ニソ竹ノ皮ヲ山ヲ造ル

を新しとと敷くはき  
さあしとと後しらす  
唐よりとと女はあつら  
はとととり歌よるは。

和漢堂ス月ヲ 七言律

残りありと此名月のおら  
うなぐ一人の皆こらむく。  
清ま波月の玉とととと  
二音に事あひやららん。  
雲く山陰のなとわらへ  
おもは又科の境をらん。  
はくれ社子とととと  
早ととととととと。

ね云花ノ詩ハ和舞ノ体ニ  
效イテ全ク凡情ヲ成セリト  
云フシ去レハ第一才ニノ向ハ世ニ人ノ花ヲ喜ビスル唐土人

ハ牡丹ヲ云イ所朝之ハ櫻ヲ云テ其趣ハ異ナ  
其意ハ同シキトナリ次ニ後對ノ鼓ニ咲トハ唐  
ノ遊車ニシテ時ナラズトモ花ノ咲タルヨシ羯鼓樓ニ  
詩ノ意ヲ借り用イ鐘ニ散ルハ言ノ詞ナレハ定  
和後ノ情ヲ對シ殊ニ哀ホノ二相ヲ云ハル西ノ鳴カ  
僧ノ對ト云フモ花會スラ尺ハカル所アラシカ或ハ  
ニ下方野トハ古今佳事ノ俳諧ニシテ借りテオハ和後  
題名ヲ結シオニハ詩ノ通情ヲ顯ハス定ニ起結  
幽微ヲ味スレ去レハ五言ノ詩ハ本朝ヨリ起リテ本朝  
カ評ニモ云ハル此等ノ次オハ選者ノ心得ナカラ本朝ノ詩格

カ定ムキ作者ノ粉骨ヲ知ルキナリ  
和云月ノ詩ハ俳諧ノ体ニ效ヒテ全ク虚誑ヲ尽セリト  
云レ去ルハ和後ニ月花ヲ費シテ本朝ニ詩格ヲ定  
キニオハ和朝ノ和者ノ凡体ニ效イオハ和朝ノ俳諧  
ノ筆格ヲシツレ彼ニ五言律ト云イ此ニ七言律ト云  
レ題ノ次オハハ謂ナリ去レオニオニ句ハ金原シカ  
禁止ノ詞ヲ借りテ安仲磨ヲ飯與ノ吟ニ寄ス先ハ  
我朝ノ誤詠ソト見ルレハ次ニ兩對ハ詩ノ詞ヲ  
ナラテ微瀨臥王塔トモ委彼金不定トモ其ニ  
古詩ノ次ヲ字レ月ノ桂ノ實マハナル充リラ花

ハカリニト讀タレ古歌ノ情ヲ合セタリ次ニ後對ハ子  
カ故直ニ寄セテ雪ニ山陰ノ友ヲ憶フトハ後雪初時  
月色清明ト云ルハ字ノ意ヲ借リ用ニ然ラハ露モ  
更科ト云ルモ露ヲ晒スト云イカケテ共ニ天ノ皎潔  
ヲ雪ト露路トニ形容セリ、ナヨリ會蘇ノ山陰ヲ云ハ  
ヤニカケテ訓テ更科ニ對シタル和漢ニ不思議ノ各所  
ナフニ方増シテ友、字モ婉、字モ和漢ニ月下ノ風情  
二千里、外ノ詩ヲ合メ、厨メカ子ツノ歌ヲ合ハス此等  
托物比興ノ体ト知ルヘシ然レハ結句ニハ一二ノ趣ヲ結ヒ唐  
ノ詩人ハ旅霏ノ月ヲ思フ、故郷ノ妻女ヲ思フ焦ル

我朝ノ名月ハ辛ト諸世ニ月ヲ詠メテ危様ノ物思イモ  
アラストハ辛ト妹トノ郷音ヲ云ル此等ヲ倭語ノ自在  
ヨリ、無心所着ノ体ナカラ俳諧ノ文法モ多クナルハリ  
本朝ノ詩格モ多クナルハシ或ハサレトハ任他ヲ危様示  
ノ畧語ナレハ是ヲモ和漢ノ通詞ナラン或ハ別ニ云フ  
後ハ物ヲ思ハスト云ル同字ノ差別モ多クニ效フヘシ

道途遊

五言

蓮二五言

あゝのよふれ中に。おぼれは、  
あゝのよふれ中に。おぼれは、  
あゝのよふれ中に。おぼれは、



意ナラシク然ラハニニ言ト云イテ十子トナヤナラ一旬ニ  
 兼用ハ多クニ同シヤラニ去ト其詩ハニ々五々セタトキ  
 一々ニ假名ニシタトキフ付ニ意アリテ詞タラス是ハ  
 長短ノ句法ニモ似タシト其ノハ其句ノ置所ヲ定メテ  
 別ニ長短ノ詩格ハ有ルシ此等ノ法格ハ千美ニカ別ナシ  
 何カハ我朝ノ假名ラ以テ漢家ノ真名ニカシヤナリ  
 去ハ花鳥ノニ字ニ詩格ヲ起シ今ハ花鳥ノ感ニ詩格ヲ  
 結シテ集ニホチカハエケセテノ韻ヲ用イ條ニ渡白狂  
 ハラクスゾノ韻ヲ詠ム一字ニ点ノ私ナカラシハ若ヤ七師ノ  
 遺命ヲ傳ヘテ世ニ付一格モ有ラニカ也

秋思

尾上の麻の秋と云れよ 耳のくさるゝ老のひさしと  
 けらのくさるゝのりと云は ちののおもふとまのひさしと  
 狂云世詩ハ眼前ノ秋情ヨリ我身ノ老ヲ感シタレ徒然ナリ  
 四季ノ段ニモ世ノ律モタラヌ身モ空ノ名残ノ情キト云ハ  
 光陰空過ノ嘆自ナリ然レハ我宿ノ紅子也ノ色ヲ春命花トモ  
 詠ムクハ四季ノ以テ雅ラキニホントナリ況ヤ明日ヲ待チハ  
 天ニ風雨ノ変化ヲ云イ人ト死生ノ因果ヲ云フ或ハ紅子也ヲ  
 ナ化ト云ル杜牧ヤ山行ノ詩ヲ傳テ世ニ傳ルノ得ヤレドレ但シ世  
 ハ濃ノ山野ノ之轉ノ山下ニ南居ス以テ雅ニ云言ノ以テナリ也

十月

其五  
 其六  
 任其詩隱見法入全篇極極子之以此一以詩法詠  
 十一  
 其七  
 其八  
 其九  
 其十  
 其十一  
 其十二  
 其十三  
 其十四  
 其十五  
 其十六  
 其十七  
 其十八  
 其十九  
 其二十  
 其二十一  
 其二十二  
 其二十三  
 其二十四  
 其二十五  
 其二十六  
 其二十七  
 其二十八  
 其二十九  
 其三十  
 其三十一  
 其三十二  
 其三十三  
 其三十四  
 其三十五  
 其三十六  
 其三十七  
 其三十八  
 其三十九  
 其四十  
 其四十一  
 其四十二  
 其四十三  
 其四十四  
 其四十五  
 其四十六  
 其四十七  
 其四十八  
 其四十九  
 其五十  
 其五十一  
 其五十二  
 其五十三  
 其五十四  
 其五十五  
 其五十六  
 其五十七  
 其五十八  
 其五十九  
 其六十  
 其六十一  
 其六十二  
 其六十三  
 其六十四  
 其六十五  
 其六十六  
 其六十七  
 其六十八  
 其六十九  
 其七十  
 其七十一  
 其七十二  
 其七十三  
 其七十四  
 其七十五  
 其七十六  
 其七十七  
 其七十八  
 其七十九  
 其八十  
 其八十一  
 其八十二  
 其八十三  
 其八十四  
 其八十五  
 其八十六  
 其八十七  
 其八十八  
 其八十九  
 其九十  
 其九十一  
 其九十二  
 其九十三  
 其九十四  
 其九十五  
 其九十六  
 其九十七  
 其九十八  
 其九十九  
 其一百

其三

其四  
 其五  
 其六  
 其七  
 其八  
 其九  
 其十  
 其十一  
 其十二  
 其十三  
 其十四  
 其十五  
 其十六  
 其十七  
 其十八  
 其十九  
 其二十  
 其二十一  
 其二十二  
 其二十三  
 其二十四  
 其二十五  
 其二十六  
 其二十七  
 其二十八  
 其二十九  
 其三十  
 其三十一  
 其三十二  
 其三十三  
 其三十四  
 其三十五  
 其三十六  
 其三十七  
 其三十八  
 其三十九  
 其四十  
 其四十一  
 其四十二  
 其四十三  
 其四十四  
 其四十五  
 其四十六  
 其四十七  
 其四十八  
 其四十九  
 其五十  
 其五十一  
 其五十二  
 其五十三  
 其五十四  
 其五十五  
 其五十六  
 其五十七  
 其五十八  
 其五十九  
 其六十  
 其六十一  
 其六十二  
 其六十三  
 其六十四  
 其六十五  
 其六十六  
 其六十七  
 其六十八  
 其六十九  
 其七十  
 其七十一  
 其七十二  
 其七十三  
 其七十四  
 其七十五  
 其七十六  
 其七十七  
 其七十八  
 其七十九  
 其八十  
 其八十一  
 其八十二  
 其八十三  
 其八十四  
 其八十五  
 其八十六  
 其八十七  
 其八十八  
 其八十九  
 其九十  
 其九十一  
 其九十二  
 其九十三  
 其九十四  
 其九十五  
 其九十六  
 其九十七  
 其九十八  
 其九十九  
 其一百

其四

其六

畫實ヲ採天し其ハ遠まニ氣色ヲ繪ニ胸句ニ田舎字ノ格ヲ  
用イ釋句ニ思ヲ詔ノ格ヲ用ニむモ和ヲ漢ナルニ其ハ詩ノ  
ヲ飾リテ花ニ心ト云ニヨリ小蝶ノニ字ヲ用イ富可セ文ハ促織  
ノ手利ト云フ蝶雨ノ模様ニモカスルト責テハ彼ニ恥リセ  
僧ノ字ニ情アリテ以雅僧愛ハ成註ナレ但し作者ハ宮田中  
濃ノ山野ニ素生ス常ハ弟ニ在ニ曲遊シテ向ラ高即ト稱セリ

山中尋酒

得巴

竹の枝まよふ花ときらめけ  
畚ありて一まゝ新しき  
行をたれなく宿は癒まて  
向りきるのをしらひ

和云詩作者の故よりテ濃ノ山里ヲ廻ルニ山道ノ難難ヨリ

軍家ノ不自由ラ云ニナリ去ハ番振ト云フ古ハ擔賣ノ山高  
云ニ其國ノ俗談トシテ總テ山家ノ故老ニシテ思ノ情スレセリ  
よ云レ但し作者ハ得能申テ歎ノ福免ニ任ス東華寺古乃人ナリ

確坊上丈 并序

石依免

休らる市中の商人もほくをけりとも市中に隠る  
るもけりわりの田のあまかりけり掃ふ所をな  
とせれらとのうしやらのわらふとやけり  
雨遊の真もあかきと之を庵の隣にゆきかき  
とりてたをわりの向とけりしりふかき一物

あふはたはむじやうにちかふのふとあふはたはむじやうにちかふの  
おきあつてふとあふはたはむじやうにちかふのふとあふはたはむじやうにちかふの  
あふはたはむじやうにちかふのふとあふはたはむじやうにちかふの

知るはたはむじやうにちかふのふとあふはたはむじやうにちかふの  
わんせ詩はまの二まらえにまはは雅の温和ヨリ人我ノ境ヲ  
観スルニ直ニ確ノ知ナランニ誰カハ世ノ鑄ヲ知ラザラトハ葛ノ  
松原ハ撰集オ物ニ在リテ人ハ層ト教ナラヌ身ヲ云ヘリをモ  
序文ノ松原ヨリ其地ノ由叙ラヌナラ暗ニ祖ノ悟所ニ直ニ  
伯免ハ石川氏ノ先師ニ遺教ノ今ナリ國所ハ辨類ニ出ナリ

寄書

石道

あふはたはむじやうにちかふのふとあふはたはむじやうにちかふの  
あふはたはむじやうにちかふのふとあふはたはむじやうにちかふの  
あふはたはむじやうにちかふのふとあふはたはむじやうにちかふの

わんせ詩の體ニ致シテ逢ふ逢ふ思ふ上ニ先六前對ハ思ヤル心ヲ  
云イ後對ハ世言ノ詞ニ思可ノ聲ヲ云イ子敵ヤ冊ヲ云イ今宵  
何トノ相見ニトナリ去レト月影ニ思キヲ見ハ四望船悉止テ  
行ハクモアラスト毎ノ一子ハ子敵カ詞ヲ又ケタル心モ斷聲ヲ  
和テテ明クシテ世言ノ奇絶ナラ作者ハ越ノ直江津ニ住ス名塚也凡人也

所題

文石

しーらぬよめいぢてあは

しうさうさうのりおとあは

いぢあゝのあゝあゝあゝ

人のうらた奥もさうた

い云世詩ハ仕度カ題ラ備テ人向ハ是ホラ嘆息セニ先ハ重子

カ悲奈ノニヨリ前後ハ魚心所着ラ世路ノ區々タルラ云ルナラニ

但し作者ハ甲陽軍内トシ過角ノ書傳テ姓名ヲ録セス

見月戲作

各東羽

誰うさしや天体とてあは

月のやうさうさうのり

うつゝ男のねらふかゝる

いぢあゝのあゝあゝあゝ

任云世詩ハ哀郊ノ月詩ヲ備テ天津乙女ハ婦嬬ヲ取

ラ云ハリ我ハ月宮ヲ月都ト云ル詩ヲニ多ク用ヒ来リ然レハ

世ニ云フ桂田ノイワシカ月宮ノハニ通イテ今昔ハ子ノ

名ニ逢ルハ月十五夜ノ日出度サト題ニ戲ノ子ラ云ル也

俳諧ノ筆格ハムレ但し作者ハ懐ノ北野ニ任ス各ハ習ハル也

野乘

江北之信

秋のうらたあゝあゝあゝ

あゝあゝあゝあゝあゝ

いぢあゝあゝあゝあゝ

任云世詩ハ首尾ノ巧ニシテ和漢ニ格ヲ用ヒ来リ来リ来リ人向ノ

采花ヲ思ハ秋ノ花野ノ色々ナシ中ニ誰モ我ハト思ハ奉リ

タラシラ野ヲ思ハ花ノ角素ナシ誠ニ凡雅ノ錯ニシテ作者ノ喻ハ

ハ身、上止レ、但ニ、老ハ、儂ノ如、納ニ、産シテ、稀ニ、葉山ノ、林、ニ、結、成ス  
或ハ、萃ラ、好ミ、以、雅ニ、遊、ル、能、田、年ノ、老、醫、カ、ナリ

送越老明<sup>三五七言</sup>

渡吾仲

ニ、カ、一、神、の、心、此、を、憂、ム、あ、ま、り、  
い、ろ、一、江、下、の、海、も、は、く、こ、ろ、ね  
今、ち、わ、き、ま、け、は、ま、ん、と、ま、ち、と  
へ、と、秋、の、の、り、こ、ろ、ね、れ、た、ま、れ

狂云世詩ハ字面ノ依チカラ、抽花ト松骨トニ寄リテ、冥未テ  
秋、帰、ル、意、ラ、ム、ル、を、モ、別、恨、ノ、風、情、ヲ、尽、セ、リ、但、シ、花、明、ハ  
越、ノ、直、江、津、ノ、僧、ニ、シ、テ、舊、行、ノ、風、雅、ニ、遊、リ、ト、フ、

尺牘集

蠅

誰、を、か、し、一、絲、ノ、心、も、  
癩、を、か、し、一、毛、ノ、心、も、  
香、と、き、ら、ね、の、あ、ま、り、  
あ、ら、風、の、き、ら、ね、の、あ、ま、り、  
狂云世詩ハ、秋、ム、ヲ、憎、蠅、ヨリ、む、を、知、屋、ノ、情、ヲ、よ、ク、ス、ニ、前、對、ハ、虚、ニ、後、  
對、ハ、實、ナル、字、ニ、互、言、律、ノ、風、格、ヲ、知、レ、シ、況、ヤ、秋、風、ノ、便、ア、ス、ト、和、音、ノ、  
風、情、ヲ、附、ヤ、ラ、フ、宣、事、佛、ニ、佛、語、ノ、筆、格、アル、誠、ニ、假、名、ノ、詩、鑑、ト、云、レ、シ

鶯

伊東怨

誰、を、か、し、と、ろ、ろ、や、し、れ、ん、  
竹、の、み、だ、り、ひ、つ、た、れ、あ、ま、り、ひ、つ

大月文盛一

三十八

けしきさかしの里は晴るに  
くせいのどけるをさか  
狂云詩ハ管ノ波情ヲ尽セリト云レ然レニ管ハ雨ヲ音ム鳥ナリト  
和訓モ雨音ヲ乾ト云リトウ皇縫ハ右ナリ各所ナカラサモ  
モ管ノ音ナリ但レ作者ハ我ノ教習ニ任ス洋吹ギノ師ナリ

行路難

渡右の靴

年よ改あり園よ新なり  
舟の松よあるもふれ  
人よ改ありとくに新なり  
舟の松よ腰よきとふれ  
思ふとよとや花のぬき  
早の文も金もふれ  
舟の松よあるもふれ  
人よ改ありとくに新なり  
舟の松よ腰よきとふれ  
思ふとよとや花のぬき  
早の文も金もふれ

舟の松よ腰よきとふれ  
思ふとよとや花のぬき  
早の文も金もふれ

狂云詩ハ二句ナリ三句ナリ去レ樂夫カ行路難ヨリ人向ニ云等致

ヲ云ハ其ハ師走ノ坂トハ月星ノ光ヲ金ニハ又ハ人向ノ路トハ  
兼ナレバ世向ノ沙汰ヲ通テ花ニ分限者ノ歸揚ラセトナリ但レ  
松ノ花ハ非郭ノ栄花ヲ云イテ真野ハ長者ノ通称ナリ其ハ人向  
西羽ヨリ作者モ世年ハ初老ノ自ストソ總ラハ野七里山七里ニ光坂ノ  
草卧ラ見レシ其ハ人向ノ大夏ニハ真金ノ以テ我ス時ハ高車馬  
ハカニ及ス金印等後ノ任モ寄ニス一念一吸ノ信ヲ以テ速ニ往立  
ス事トナリ去ルハ白ヨ古易カ君ノヨラ備テハ官柱ノ筆ハ云々ナリ

君玉ハ福シテ富貴ノ人ヲ羨シテ事ヲ云々ト云フ言ハ誠ニ和漢

人語アリテ其等ヲ長篇ノ鑑トスニ但シ作者ハ渡部氏ニメテ師ニ由ルノ  
 稿ニテリ常ハ其山ニ母ニ居リテ連ニ居トテ其ノ私耕セリ

韻叶

ア	カ	サ	タ	ナ	ハ	ニ	ヤ	ラ	ワ
イ	キ	シ	チ	ニ	ヒ	コ	ミ	井	リ
ウ	ク	ス	ツ	ヌ	フ	ム	ユ	ル	ウ
エ	ケ	セ	テ	リ	ハ	メ	エ	シ	エ
ヲ	コ	ツ	ト	ノ	ホ	モ	ヨ	ロ	オ



